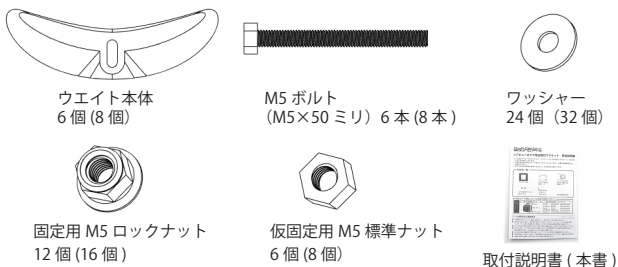


バッフル・スタビライザー・ウェイト 取付説明書

- この度はサウンドプロオリジナル「バッフル・スタビライザー・ウェイト」をお求めいただき有難うございます。
○当製品を安全に取り付け・ご使用いただくために、当書の記載事項をよくお読みください。
○取り付け後は必要時に参照できるよう、保管をお願いいたします。

内容物一覧

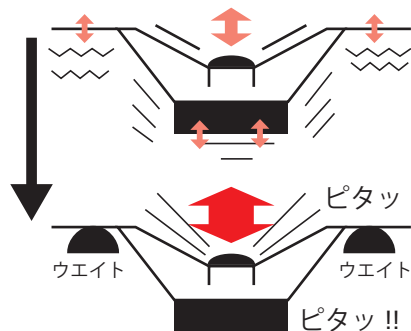
※カッコ内は8個セットの値です。



意匠登録 1732897

1 この製品の効果

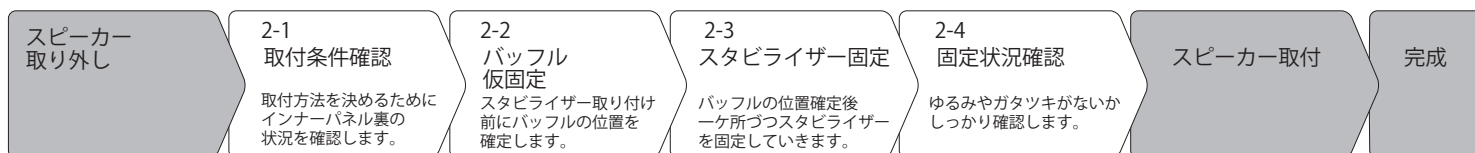
このスタビライザーウェイトは、スピーカーの振動板が前後に動作する際、反動によって、土台となるスピーカーバスケット+バッフル+インナーパネルが反対方向にブレて、振動板の細かな動きが相殺され、音のディテールが甘くなる現象を抑制する製品です。



特に、「強度はあるが鉄板が薄くてビビリやすい」最近のドアパネルに対する効果は顕著で、バッフル周辺の耐振動性が高まることで、どっしりとした安定感、静寂感と音場の広さが得られます。

※バッフル周辺の安定が目的ですので、ドア全体のデッドニングが不要になるわけではありません。

2 取付作業のながれ・注意事項・適合に関する情報



この説明書では、スピーカー取り外し / 取り付けを除く、上記の白いところの作業工程を説明しています。一連の作業では内装、配線カブラなどの脱着と、ボルト類のつけ外し等、一定の危険が伴います。取付方法に関する不明点等のお問い合わせへの対応は行わせていただきますが、不具合や損失に対する責任は一切負えません。ご自身の責任のもと、くれぐれも安全に心がけて、取付・ご使用いただくようお願い致します。

この説明書では、スピーカーのフランジ部分より外側にバッフル取り付けボルトがあるケース(トヨタ・スバル・日産・マツダ)をサンプルとして解説しています。フランジ部分直下にボルトを通すパターンや、ホンダ・三菱といった独特な構造の場合は、皿ねじを用意したり、任意の場所にボルト穴をあける等の応用を行ってください。助言が必要な場合は遠慮なくお問合せください。(連絡先は裏面の下部にあります)

2-1 取付条件確認

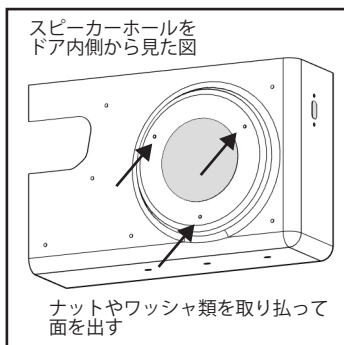
スピーカーホール周辺の部品を取り払って何も無い状態にし、スタビライザーの取付条件を確認します。

取付条件の確認とは、スタビライザ中央部の平らな面が(A) インナーパネルの裏に接触するか。あるいは(B) スタビライザーの一部が干渉して、インナーパネルとの間にスキマができるか。を確認することです。

2-2以降の取付工程において、(A)の場合はボルト・ナット各1個で固定できますが、(B)の場合はスペーサーがわりのナット等を途中に入れて、調整を行う必要があります。その見極めのために、本工程での確認はとても重要です。スキマができたままだと、本製品の効果が十分に発揮されませんし、緩みによるガタツキの原因にもなります。

念入りに確認してください!!

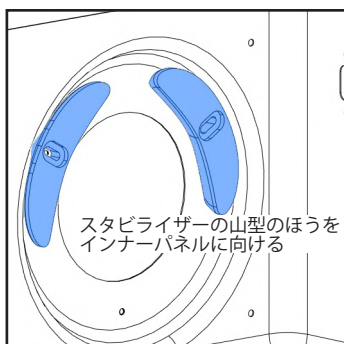
①スピーカーホール裏側の障害物を外す



スピーカーとスピーカーバスフルを取り外して、インナーパネル裏側のスピーカーホール周辺に何も無い状態にします。インナーパネルの表側にバッフル類が残っていてもかまいませんが、ボルト・ナットは全て外して、裏側には何も無い状態にしてください。

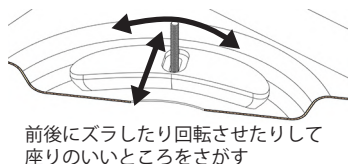
純正スピーカー固定用のタッピングビスを受けるプラスチックプラグ等も取り外して、「穴があいているだけの状態」にします。

②スタビライザーの接触状況確認 1/2



インナーパネルの裏側にスタビライザーをあてがってみます。

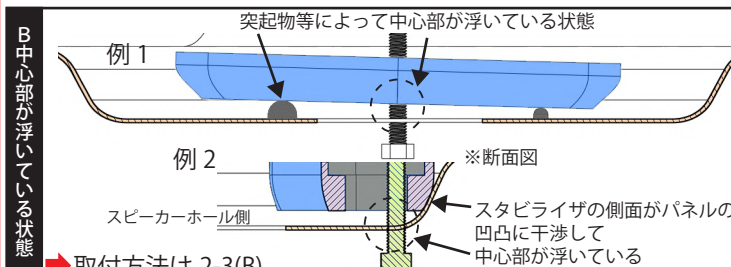
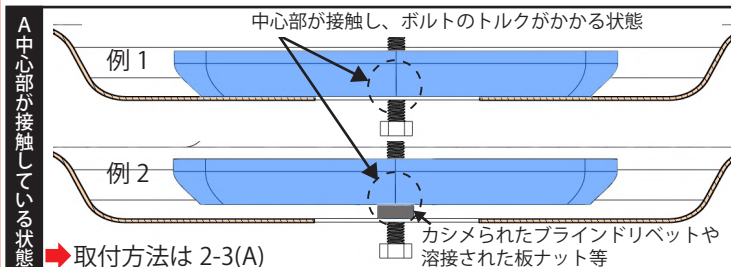
インナーパネルとスタビライザーのボルト穴同士を合わせてみて、スタビライザ中央部の平らな部分とパネル裏との接触状況を観察します。



③スタビライザーの接触状況確認 2/2

観察結果として、(A) スタビライザの中央がパネル裏に接触してガタつかない状態、あるいは(B) スタビライザのどこかが干渉して中央部とパネル裏にスキマがある状態、のどちらになるか、丁寧に見極めます。判断が微妙な場合は、付属のボルトと仮固定用ナットで軽く留めて、スタビライザをちょっとズラしてみるなどして、接触状態を見ます。

ヨコから見た図 ※ボルトの絵は中心を示すために表示しています。



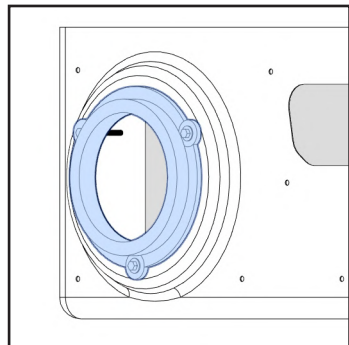
全てのボルト穴で同じ条件の場合もあれば、パネル裏の形状によって部分的に違うこともあり得ます。必要に応じてメモをとって、箇所ごとの状況を正確に把握します。

2-2 バッフル仮固定

2-1の工程によって、個々の取付条件を確認したら、すぐにスタビライザを取り付けるのではなく、まず、バッフルの位置を確定させるために仮固定を行います。

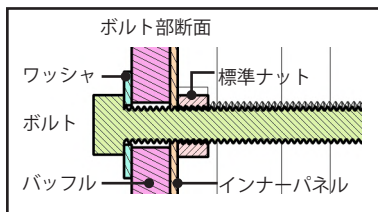
その理由は、バッフルと、スタビライザ+固定用ボルト+ナットの3組 (or4組) の全てを同時に位置決めしながら固定するのは、難易度が高いからです。そのため、ここで解説する手順によって、まずスタビライザなしでバッフルを仮固定し、その後、2-3の手順によって仮固定用ナットを1つはずしてスタビライザ1つを本固定し、その次へ・・・という順番で一ヶ所づつ確実に取り付けしていきます。

① バッフルを仮固定する 1/2

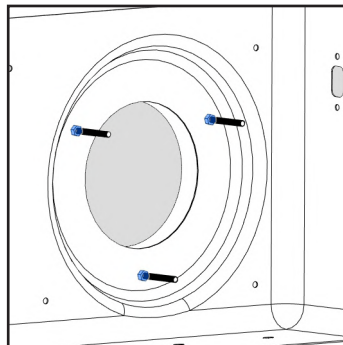


インナーパネルの表側から、取付予定のバッフルをあてがって、付属のボルトとナットを使って仮固定します。

ナットは仮固定用の標準ナット（ロックナットではない方）を使います。



② バッフルを仮固定する 2/2



3ヶ所 (or4ヶ所) 全てのネジ穴ついて、仮固定を済ませ、バッフルの位置を確定させます。

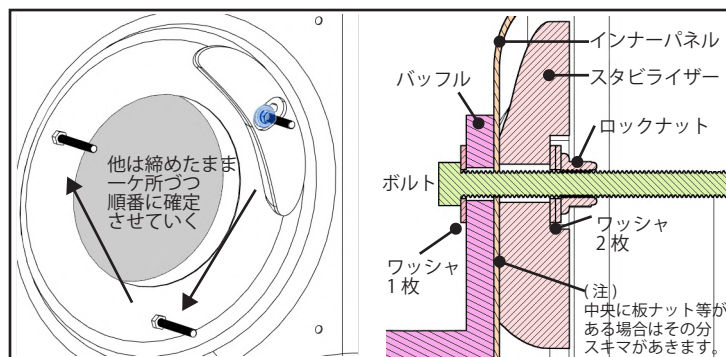
※バッフルとインナーパネルとを密着させるためにパテをはさむ等の加工を行う場合は、この工程の前後で済ませておいてください。

2-3 スタビライザー取付

バッフルの仮固定によって、ボルトの位置が決まったら、一ヶ所づつスタビライザーを取り付けていきます。

2-1②③の観察結果に応じて、インナーパネルの裏側に (A) スタビライザの中央が接触する場合と、(B) スキマがある場合とで、ナットとワッシャーの組み方が異なります。

(A) スタビライザの中央がパネル裏に接触する場合

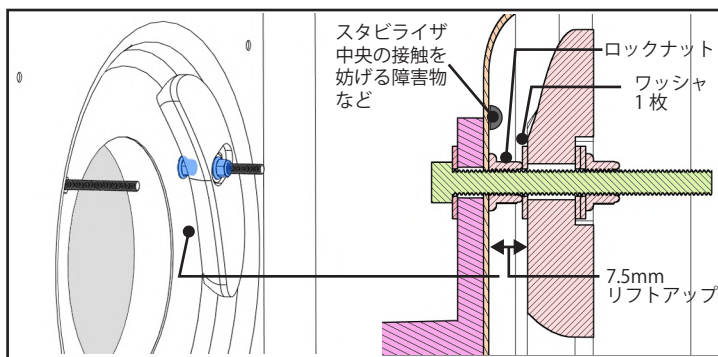


この場合は、インナーパネルに直接スタビライザーをあてがって締め込みます。

仮固定用のナットを一つだけ外して、スタビライザーをセットし、ワッシャー2枚を通して、本固定用のロックナットで締め込みます。

1ヶ所終わったら、残りの箇所を順に作業し、最後に全ての本固定用ロックナットを本締めします。

(B) スタビライザ中央とパネル裏にスキマがある場合

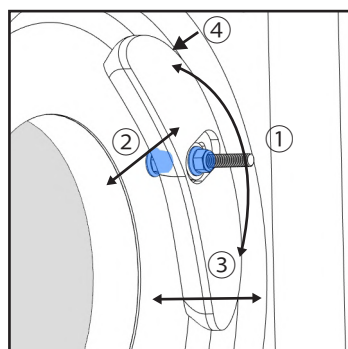


この場合は、(A)の固定法に対して、スタビライザーを浮かせて隙間を作るためにロックナットとワッシャーを追加します。

まず、仮固定用ナットを一つだけ外して、スペーサーを兼ねたロックナットを締め込んでから→ワッシャー1枚→スタビライザー→ワッシャー2枚→ロックナットの順でセットして、更に締め込みます。

リフト量が足りない場合は、別のナット・ワッシャー・カラー等を追加してください。

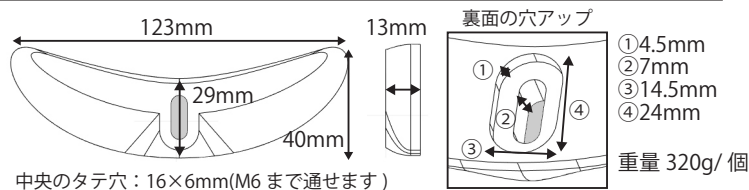
2-4 固定状況確認



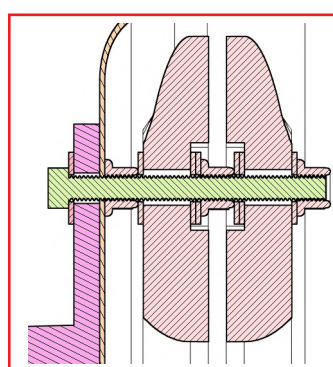
最後に取り付け状況を確認します。図のように①②③の方向に力をかけてみて、ゆりみ、ガタツキがないか確認します。

④のインナーパネルの凹凸部分と、スタビライザー側面とのスキマが非常には狭い場合、走行中のブレで微妙に影響して、ビビリ音が出る可能性があります。しっかり締めるなり、緩衝材がわりにデッドニング材をちょっと挟むなりして対策してください。

仕様



3 補足



さらに安定させたい場合は、一ヶ所に2枚取り付けることもできます。

図は取付方法の一例です。緩みが出なければよいので、締結方法は自由にアレンジしてみてください。

なお、この場合は1ヶ所あたり約600gになるので、ボルト・ナット類をM6にサイズアップするをお勧めします。

この場合、「音の華やかさ」や「ふくらみ」と誤解される共鳴の原因がより強く抑え込まれるので、より高出力なアンプで鳴らすほうがよい結果が得られると思います。

販売元

オーディオファクトリー・サウンドプロ
〒116-0012 東京都荒川区東尾久 2-38-14
TEL : 03-5913-8450 / FAX : 03-5913-8460
<https://www.soundpro.jp> info@soundpro.jp